

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年9月30日				
放課後等デイサービス事業所 キッズハウスピッピ						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動に応じて空間を分けたり、テーブルや椅子を移動したりして工夫している。 法人内の施設や環境資源を活用して、運動等を行っている。	活動毎に活動スペースを分ける等して適切なスペースを保つ。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切に職員を配置している。	今後も安全面に配慮し、場面に合わせて適切な人員を配置する。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		床の段差等はなく、バリアフリーに配慮された建物である。 活動前には使用場所の安全確認を行っている。	排泄支援の場面でトイレの広さが十分ではないが、怪我の原因となり得る物は排除し、安心安全な環境作りに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動終了後には建物、玩具等の掃除、消毒を行っている。 活動に合わせた道具の提供や場所の移動を行っている。	今後も清潔で、心地よく過ごせる環境でサービスを提供出来るように衛生管理や場所、道具の安全確認を行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		ログハウスや静養室を活用し、子どもや保護者様から要望があった時には使用できるように環境を整えている。	今後も必要に応じて個別の部屋を使用出来るよう、常に環境を整えておく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルを活用し、業務改善に努めている。	今後もPDCAサイクルを活用し、業務改善に努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に一度保護者様向けのアンケートを実施し、業務改善に努めている。	今後も保護者様向けアンケートを実施し、業務改善に繋げる。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のミーティングの他、必要時には会議を設け、業務改善に努めている。	今後も会議等で、職員の意見を把握し、業務改善を図っていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は受けていないが、年1回の福祉サービス自己評価、保護者様向けアンケート、子ども向けアンケートの評価を元に、業務改善に繋げている。	今年度も福祉サービス自己評価、保護者様向けアンケート、利用者様向けアンケートを実施し、業務改善に繋げる。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月1回、スキルアップを目的とした内部研修を実施している。外部講師による研修も実施している。	今後もスキルアップ研修を行い、職員の資質向上を図る。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		法人ホームページに支援プログラムを公表している。	常に業務改善を図り、必要な場合には支援プログラムを見直していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		担当職員、児童発達支援管理責任者が中心となり、子どものニーズを把握した上で、個別支援計画書を作成している。	今後も適切なアセスメントを行い、子どもと保護者様のニーズが反映された個別支援計画書を作成していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画会議で子どもの現状やニーズについて共通理解を図り、個別支援計画書を作成している。	今後は子ども、保護者様との面談を通してニーズや課題を分析し、個別支援計画書を作成していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画会議で検討した支援方法を職員間で共有し、実践している。	今後も個別支援計画書の内容を職員間で共有し、統一した支援を行う。必要な場合には、モニタリングを実施し、個別支援計画書の内容を変更していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	標準化されたツールでのアセスメントを行っていないが、保護者様や関係機関等でのアセスメントの結果を提供していただく他、日々の子どもの変化を職員間、保護者様、関係機関等と共有している。	今後も職員間、保護者様、関係機関等で情報を共有しつつ、アセスメントを行う。さらに、標準化されたアセスメントツールの活用を検討し、よりきめ細かなサービス提供に努める。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」の内容を盛り込んだ個別支援計画書を作成している。	現在、「移行支援」、「地域支援・地域連携」の機会が少ないため、今後の活動、支援内容に取り入れる事が出来るよう努めていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムをチームで立案している。	今後も職員全体で話し合い、活動プログラムを立案していく。

適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもたちの状況に合わせて活動内容を設定したり、変更したりしている。	子どもや保護者様のニーズを踏まえながら、行事の企画や活動内容の改善を行う。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を組み合わせた個別支援計画書の内容を作成し、計画に基づいた支援を行っている。	今後も、個別活動と集団活動を組み合わせたサービス提供、計画の作成を行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には職員間で必ず打ち合わせを行っている。学校休業日等で支援開始前の打ち合わせの時間が十分取れない場合は、申し送りのノート等を活用し、職員間の情報共有に努めている。また、その日の活動のリーダーを決める事で、支援内容や役割分担を明確にし、支援にあたっている。	今後も様々なツールを活用しつつ職員間での情報共有を徹底して行い、安全に過ごす事が出来る環境を整える。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には、職員間で打合せを行っている。支援終了後に打ち合わせが出来ない場合は、申し送りノートや支援記録による情報共有を行っている。	今後も支援についての情報共有を、支援終了後に限らず必要に応じて行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日の記録を、項目毎に細かく記録し、支援方法に改善点や問題点があった場合は、会議を開催し改善に努めている。	今後も毎日の記録をとり、必要に応じて支援の検証をし、支援の質の向上に繋げる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的（6か月毎）に実施している。	今後も定期的（6か月毎）にモニタリングと計画の見直しを行い、必要な場合には、6か月に満たなくても会議を開催し、計画の見直しを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		地域交流の機会の提供は不十分だが、お楽しみ会で公共施設を利用する等し、地域と関わりを持つ事が出来るよう工夫している。余暇活動の他、曜日毎に制作活動、ソーシャルスキルトレーニング、グループ活動、自立支援等を設定し、支援を行っている。	今後も放課後等デイサービスガイドラインの4つの基本活動を組み合わせ、それぞれの子どものに必要な支援を行う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		様々な場面で多くの選択肢を用意し、自己選択、自己決定出来るよう促している。発語が難しい子どもには、写真やイラストで選択肢を提示したり、身振りサインを取り入れたりして自己決定を促している。	十分には出来ていないため、今後は選択の幅を広げたり、自己決定出来る機会を増やしたりしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者、または担当職員が参加し、情報共有に努めている。	今後も外部との会議には、その子どもの状況をよく理解した者として児童発達支援管理責任者や担当職員が参加し、情報共有に努める。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要な場合には、保健師や役場と連携している。	今後も必要に応じて、保健師や役場、その他関係機関等と連携して支援を行っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		担任の先生と連絡を取り合い、必要な情報について共有している。また、学校の連絡ノートを学校、ご家庭、放課後等デイサービスで共有し、情報共有に努めている。	今後も学校と連絡を取り合い、子どもに必要な情報を共有し、より良い支援に繋げる。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前に利用していた保育園等と情報共有する機会はなかったが、地域の保健師を通じて、生育歴等の情報収集に努めている。	今後必要な場合には、就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等と連携を図る。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業予定の利用者様に関する情報を速やかに提供出来るよう情報整理している。必要な場合には、子どもの特徴、支援内容等をまとめたサポートブックを作成し、移行先へ渡している。	今後、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する子どもがいた場合には、移行先で子どもが過ごしやすいよう放課後等デイサービスでの支援内容等の情報を提供していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達支援センターとの連携は図る事が出来ていないが、法人として外部講師を招き、支援に必要な研修を受ける機会がある。	今後必要な場合には、地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設ける。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会はないが、地域交流の観点から、お楽しみ会を通じて同法人の施設利用者様と交流する機会を設けている。	今後、お楽しみ会等を通じて地域の子どもたちと交流する機会を設ける。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		事業所として参加はしていないが、法人として参加をしている。	今後も法人として参加予定。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時等に、その日の様子を保護者様にお伝えし、こどもの発達の状況や課題について共通理解を図っている。また、連絡ノートを活用し、ご家庭との情報共有に努めている。	今後は、保護者様と定期的な面談を行い、情報共有や共通理解により力を入れていく。

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ペアレント・トレーニングは行っていないが、有効なコミュニケーション方法や支援方法等について保護者と情報共有し、共通理解を図る事を心がけている。	今後、保護者様の意向を取り入れつつ、ペアレント・トレーニング等に関する研修を検討していく。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○	運営規程、利用者負担等については文章にて明文化しており、契約時に両者にて読み合わせを行い、確認した上で、各一部ずつ保管している。支援プログラムはホームページに掲載し、周知している。	今後も、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を心掛け、変更等があった場合にはその都度お知らせする。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○	保護者様から支援について要望等を伺い、支援に取り入れている。	今後は、子どもや保護者様と定期的な面談を行い、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先した支援を行う事が出来るよう努めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○	個別支援計画書を作成後、内容について説明し、保護者様から同意の署名をいただいている。	今後は、実際の支援場面を保護者様に見て頂く機会を設けたり、面談を設けたりして、ニーズを引き出す事が出来るような働きかけを行う。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	面談は行っていないが、相談等があればその都度面談の機会を設ける等して対応している。	今後保護者様と定期的な面談を行い、情報共有や共通理解により力を入れていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	法人で保護者会を作っている。	今後、保護者様の意向も取り入れつつ、事業所での交流の機会を検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○	契約時に苦情受け付けについての説明を行っている。また、事業所内に意見箱を設置し、子どもも意見が述べやすいよう環境を整えている。	今後も苦情の申し立てがあれば、その都度迅速に対応、改善する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○	SNS等は活用出来ていないが、月1回広報誌を発行し、子どもや保護者様に活動の様子、行事予定等を伝えている。	今後も月1回広報誌を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を写真や文章で分かりやすく子どもや保護者様に発信していく。今後は、SNS等の活用を検討したい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○	契約時から1年毎に個人情報開示書にて外部への情報開示の可、不可の確認をいただいている。各自のケースファイルはスチール棚にて厳重に管理し、外部者の目に映らないように管理、保管している。	今後も個人情報に関するデータは厳重に取り扱う。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	絵カード等の視覚支援、ソーシャルスキルトレーニング等を取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図っている。保護者様とは電話や送迎時、面談等で意思疎通、情報共有を行っている。	今後も子どもそれぞれに合った方法で意思疎通、コミュニケーション能力の向上を図る。保護者様とのやりとりでは、専門用語を使わず分かりやすい伝え方を意識し、必要な場合には面談を通して意思疎通、情報共有を図る。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	法人の行事に地域住民を招待したり、広報誌を配布したりして、地域に開かれた事業運営を図っている。	今後は、事業所単体で地域住民との交流を図る行事を開催していきたい。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	ご家族への周知は十分とはいえないが、各マニュアルを策定し、訓練を実施している。	今後は、ご確認に各種マニュアルを配布し、緊急時の対応について周知徹底していく。また、訓練日程を年間で計画し、定期的な訓練を実施する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	事業所単体での訓練は不十分だが、グループ活動で危険予測学習を行い、非常時の動き方について学習する機会を設けている。また、法人で業務継続計画（BCP）を作成し、非常時に活用して業務継続を図っている。	今後も法人のBCPを活用しつつ、様々な場面を想定した危険予測学習を継続し、その他必要な訓練を実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○	契約時から1年毎に救急連絡シートを保護者様に記入していただき、服薬、発作、アレルギー等の情報を確認している。	今後も子どもの状況を常に把握しておくために、救急連絡シートを記入していただき、内容に変更があった場合にはその都度保護者様に確認を取る。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	医師の指示書はないが、食物アレルギーがある子どもに関しては、保護者様より情報提供していただき対応している。基本的に利用時に口にする物は、家庭から持参していただいた食べ物のみになっている。お楽しみ会等で配る食べ物に関しては、事前にアレルギー物質が含まれていないか確認を取っている。	必要に応じて、保護者様の許可、情報をいただき、適切に対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	安全計画に沿って、安全確認、避難訓練を実施している。	必要に応じて、安全管理に関する研修を実施し、安全に過ごせる環境作りに努める。今後より細かな場面を想定した安全計画を作成していく。

51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		歩行時や送迎時等の安全確保に関して、ピッピだよりを通じてお願いしている。	子どもの安全確保のため、定期的に取り組内容についてより詳細にお知らせしていく。
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		法人として作成し、法人全体で情報共有、再発防止の対応を行っている。	今後も、ヒヤリハット発生時は事業所だけでなく、法人全体で共有し、改善を図る。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		マニュアルに基づき、研修会を実施している。虐待早期発見のための福祉サービス自己評価を定期的の実施している。	研修会の他に必要に応じて会議を実施し、虐待を早期発見すると共に、虐待防止の意識を高めていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束を行う場合のマニュアルを法人全体で整備している。	今後対応が必要な場合には、子ども、保護者に同意を得た上で、計画書への記載、実施、記録を行う。